

脂肪乳剤の投与速度変更を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、脂肪乳剤の投与速度変更を提案することで、安全な薬物療法に寄与できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶大腸憩室炎の治療のため、絶食管理・中心静脈栄養が開始となった患者
体重：47.9 kg

【注射薬（一部抜粋）】

- ・イントラリポス輸液 20% 1 袋（250mL）
中心静脈注射 6 時間で投与（精製大豆油として 1 袋に 50g を含有）



Cさん

Cさんに脂肪乳剤（イントラリポス）が6時間で投与開始となっている。投与速度を計算すると脂肪として0.17g/kg/hrとなっており、投与速度が少し早そうだ。



薬剤師

Cさんに開始となっている脂肪乳剤ですが、脂肪が血中に蓄積することに伴う副作用予防の観点から、脂肪として**0.1g/kg/hr 以下の投与速度が推奨**されております¹⁾。投与速度を遅くすることは可能でしょうか。



医師

そうですね、それでは投与時間を延ばしましょう。何時間で投与すればよいですか。



ありがとうございます。Cさんの場合、投与時間を12時間に延ばせば、0.087g/kg/hrとなり、投与速度の上限を下回ります。

脂肪乳剤（イントラリポス）の投与時間は12時間に変更となり、副作用症状なく経過した。

脂肪乳剤の投与速度変更を提案することで、安全な薬物療法に寄与できた。

脂肪乳剤（イントラリポス）の投与時間の目安（成人）

体重 (kg)	30	40	50	60	70	80	90	100	投与時間(hr)の計算式 (0.1g/kg/hr)
20%製剤250mLの 投与時間(hr)	16.7	12.5	10	8.3	7.1	6.3	5.5	5	500 ÷ 体重(kg)
10%製剤250mLの 投与時間(hr)	8.3	6.3	5	4.2	3.6	3.1	2.8	2.5	250 ÷ 体重(kg)